

第35号

発行 放送大学北海道同窓会

発行責任者 宮崎新吾

発行日 令和元(2019)年12月1日(日)

URL: <http://hhdoso.sakura.ne.jp>

会員数241名

令和元(2019)年11月1日現在

# 放送大学 北海道同窓会会報

## 「同窓会会長あいさつ」

放送大学北海道同窓会

会長 宮崎 新吾



同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝でご活躍の事と拝察いたします。

令和元(2019)年度(放送大学北海道同窓会定期総会において承認を頂き、令和元年年5月より沖野前会長の後を受けて会長を務めさせていただいております、平成25年3月卒業の宮崎新吾でございます。会員数241名を擁する放送大学北海道同窓会、皆様のご協力により、今なお会員数は増加傾向にあります。私自身は、同窓会活動6年と活動歴もまだまだ浅く浅学菲才な私でございますが、皆様のあたたかいご支援ご協力を頂き、母校と同窓会発展の為、微力ではありますが、これからも頑張る所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、放送大学は、これまでの大学とは違い、卒業をしても多くの方が再入学され、さらに学習を続けていくというこれまでにない大学のスタイルをもった、日本国内でも珍しい大学であります。最近では、他の大学も社会人入学を受け入れるようになってきて、大学というものが、学歴を取得するためだけの存在ではなくなってきていることを示しているような気がいたします。

放送大学の来生学長は、この放送大学について、年齢層も職業も、人生経験も、学ぶ動機も、実にさまざまな人が集まっていて、具体的な問題意識をもって学んでいる人が多い。また、そのような素晴らしい学生に、これまでの行われてきた学術の基礎を支える知識としての「伝統的な教養」に加え、いま生きている状況の中で自分が抱えている問題をよりよく改善し、社会環境が変わる中、新しい時代に適応して生きていくための職業的な知識としての「新しい意味での教養教育」を、社会のニーズに合わせて提供すると仰っております。その結果、国内の大学の中でもきわめてリピーター率の高い、非常に魅力のある稀有の大学として放送大学が広く社会に認められることとなっております。

放送大学のこのような特性をさら進展させるためには、社会との連携が不可欠であり、同窓会組織と大学、そして各地で活躍している同窓生などがお互いに連携を密にし、交流を深め合うことが大切であると考えます。大学からも、同窓会組織の充実に大きな期待が寄せられているところです。

具体的には、現在、札幌圏にやや偏っている会員を、旭川、函館、北見の各地域に幅を広げ、会員数の増加を図るとともに、研究発表会などの各種行事の充実を通じて同窓会を身近なものに感じてもらえるようにし、総会にもより多くの会員に出席していただけるようなものにしたいと考えております。また、放送大学として取り組んでいる、社会に有用な「ユニークな活動を行っている」方々にも出会いたいと考えております。

このような目標の達成のためには、当会自身がより楽しくより魅力あるものにならなければなりません。今後とも、会員のみなさまの暖かいご支援をお願いしますとともに、ご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

また、これまで諸先輩方が培ってきた卒業生のネットワークと、新入学・再入学で現役学生となっている方々を融合させることができれば、新たな道が開け、同窓会活動のさらなる活性化へつなげることができると思っております。すなわち、卒業生だけのための同窓会ではなく、卒業生も現役学生も含めた、放送大学に所縁のある方すべての方々のための同窓会ありたいと願っております。

最後になりますが、大変多忙な中、同窓会会報の発行やさまざまな行事などご尽力をいただいている役員の皆様のご活躍に心から感謝するとともに、会員のみなさまのより一層のお力添えを賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

どうぞよろしくお願いいたします。

# 第11回文化祭開催しました

「第11回文化祭を振り返って」

第11回文化祭実行委員

放送大学北海道同窓会長 宮崎新吾

第11回文化祭が令和元年9月12日(木)から9月14日(土)まで行われました。文化祭は、講演・ステージ発表、映画会、作品展示、学生の卒論・修士論文のポスター展示、バザーを行いました。そのうち、9月14日に行われた講演会・ステージ発表の概要についてご紹介いたします。

## ☆挨拶

- ・主催者代表 第11回文化祭実行委員長 熊谷憲次より挨拶を行いました。
- ・つづいて、共催者代表 放送大学北海道学習センター所長 新田孝彦先生よりご挨拶をいただきました。

## ☆講演会

- ・講演者 : 小樽商科大学商学部企業法学科教授  
放送大学北海道学習センター客員教授 片桐 由喜 氏
- ・講演演題: 「超高齢社会における住居保障-どこでだれと暮らすか?」  
現代とこれからの超高齢社会を、社会保障と家族レベルとによる視点からの講演であり、大変興味深いもので、内容的にはかなり奥深く、高度な内容でありましたが、それを、先生は分かりやすく解説してくれました。(92名の参加がありました。)

## ☆ステージ発表

- ・うたの会の合唱では、「よろこびの歌」、「希望のささやき」、「サンタルチア」、「カチュウシャ」、「道放大生讃歌」の5曲を歌っていただきました。いつもながら、美しい歌声で心が癒されました。また、全国でも北海道にしかない、北海道の放送大学生の歌「道放大生讃歌」を声高らかに歌っていただき、歌詞を知っている参加者も一緒に歌っていました。
- ・本来であれば、ここで中川俊二さんによる「朗読」が行われる予定でしたが、当日都合が合わず、とても残念でしたが拝聴することができませんでした。次回に期待したいと思います。

#### ☆サークル発表

- ・ フランス語サークルは、皆さんよく御存知の「夢見るシャンソン人形」、「オーシャンゼリゼ」の2曲をフランス語で歌っていただきました。とても発音がよく、素晴らしい歌声でした。
- ・ パソコン学び隊からは、パワーポイントによる「釧路の長期滞在について」と題しまして発表していただきました。こちらは、パワーポイントの技術もさることながら、釧路のよさがとてもよく表現されていて、私も釧路に行ってみたくくなりました。
- ・ 学友会からは、「ビブリオバトル」の発表がありました。これは、発表者が自分の読んだ本をレビューして、聴衆（レビューを聞いている人たち）がどの発表者の本を読みたくなくなったかを競うものです。私は、はじめてこの「ビブリオバトル」を拝聴したのですが、とても面白く、また、書物を読みそこから知見を得るといふ、研究の基本をこの「ビブリオバトル」から学べるような気がしました。

また、12日からは作品展示があり、作品展示の内容は、絵画、写真、手芸、織物、吊るし飾り、折り紙など、サークル活動ポスター展示は、同窓会、学友会、英語サークル、地球守り隊による活動状況と新会員の募集を行ったほか、学術ポスター展示は、「シベリア抑留を考える会」の写真パネル等、また、昨年度の研究発表者の政川俊康さんの「初期宇宙におけるダークマター挙動のN体シミュレーション」、文京学習センター在籍の高橋一彰さんの「ビブリオバトルに関して」の展示提供がありました。

13日からは、第5回ドイツ映画会では今年度も筑和正格前センター所長の選りすぐりのドイツ映画が解説とともに上演されました。愛と死と悪に関する3部作の第1作目として、愛についての作品で引続き来年度の上映が期待されます。(参加者は29名)

#### ☆バザー

- ・ 14日午前10時ころから5階ロビーで皆さんからの善意の品をバザーとして売却し、実行委員会運営費に充当しました。

#### ☆閉会の辞

- ・ 最後に、北海道同窓会長から閉会の辞がありまして、第11回文化祭・講演会・ステージ発表は幕を閉じました。

この文化祭も、放送大学北海道学習センターを代表するととても素晴らしい取り組みのひとつで、これをお読みの皆さんも次回はずいぶん参加されることをお勧めいたします。

## 9月21日 令和元(2019)年1学期の学位記授与式がありました

放送大学北海道学習センター(出席者 33 名)、旭川サテライトスペース(出席者 2 名)で執り行われました。苦難を乗り越えてはれて学位を手にした方、本当におめでとうございます。今学期の北海道学習センターから 88 名の新学士と旭川サテライトスペースから 10 名の新学士が誕生しました。



北海道学習センター所長  
新田 孝彦

皆様、このたびの放送大学教養学部のご卒業、まことにありがとうございます。

放送大学で学ぶ方は、その目的も、学び方も実に多様ですが、全科生の皆様は特に、それぞれ何がしかの制約や困難を抱えての学修だったのではないかと推察いたします。今回は全道で 100 名近くの方が卒業を迎えられましたが、放送大学の教職員一同、まずはその努力に対して敬意を表します。また、放送大学のシステムをうまく活用し、ご自分の学びの幅を広げて特別賞を授与された方々にも、心からお祝い申し上げます。

皆様の卒業を祝して、私からの期待を二つ申し上げたいと思います。一つは、大学を卒業するということの社会的な意義について、もう一つは生涯学習の意義についてであります。

放送大学の学部名は「教養学部」です。このことの意味を少し考えて見ましょう。いまの大学というシステムは、ヨーロッパ中世の末期、11世紀に誕生しました。「ユニヴァーシティ」という言葉の語源となったのは、ラテン語の「ウーニヴェルシタース」という言葉ですが、これは皆様も世界史で習ったことがあるかと思いますが、「ギルド」や「ツunft」という言葉と同じく「同業者仲間」あるいは「組合」を意味する言葉です。それでは、大学はどんな同業者の集まりかと言えば、それは、学習意欲に燃える「学生団」と教育に情熱をもった「教員団」という二つの集団の集まり、一言で言えば「学問によって結びついた仲間」というのが「大学」という言葉の本来の意味だということになります。もちろん複雑な組織である現代の大学では学生も教員も「事務職員」の力によって支えられていることを忘れてはなりません。ちなみに「宇宙」も「ユニヴァース」と言いますが、これも語源は同じで、「一つにまとまったもの」という意味です。

この大学の中で「教養学部」は、神学部や法学部、医学部といった専門学部に進むための前段階として「リベラル・アーツ」を学ぶところでした。放送大学の教養学部も英語標記は「Faculty of Liberal Arts」と言います。この「リベラル・アーツ」は、当時は七つの科目（文法、修辞、弁証、算術、幾何、天文、音楽）で構成されていたために「自由七科」とも言われますが、たんなる「七科」ではなく「自由」という形容詞が付けられているのはなぜでしょうか。この言葉の名付け親であるキケロによれば、これらは奴隷ならぬ自由人にふさわしい学問だからということですが、同時にここには、学問が精神を自由にするという意味も含まれていました。つまり「無知や、無知に起因する偏見から精神を解き放つ」ということです。

このように考えて見ますと、大学を、とりわけ教養学部を卒業することの意義についても、新たな視点で捉え直すことができるのではないのでしょうか。大学を卒業し学位を取得するという事は、大変に誇らしいことであり、個人の歴史の中で大きな意味を持ちます。しかし、皆様には、この卒業をただ個人的な出来事として記録し、記憶するだけではなく、一人ひとりが「無知や偏見を免れた自由な精神」をもつことが「自由で寛容な社会」の実現につながるということ、そのためにこそ教養学部は存在するのだということ、つまり大学で学んだことの社会的な意義についても時折思い起こしていただきたいと思います。

ところで、先週札幌の学習センターで文化祭が行われ、さまざまなサークル活動の発表などがありましたが、その中で、この3月に101歳で四つ目のコースをご卒業なさった加藤榮さんがご自身の蔵書の一部をバザーに出品してくださいました。ほとんどが来場者の手に渡りましたが、私はこの数十冊の本を見て驚きました。失礼な物言いになることを承知で申し上げますと、それらの本のすべてが新しいのです。大事にしまっておいたという意味ではなく、最近出版された本だという意味です。その分野も小説、ノンフィクション、教養系の新書と幅広く、中にはDVD付きの大人のラジオ体操といったハウツウものもあり

ましたが、これは加藤さんの長寿にあやかりたいということであつという間に売れました。加藤さんに伺ったところでは、週に何回かは書店に行くことを楽しみにしておられたということでした。たんに、放送大学のテキストを読んで試験に備えるということだけではなく、幅広い領域に関心を持ち続け、新しい知識を得ることを怠らない加藤さんの姿勢に接し、改めて生涯学習のあるべき姿を教えていただいたと感じております。

もちろん、生涯学習のあり方は一人ひとり異なって当然ですし、放送大学で学ぶことだけが生涯学習ではありませんが、どうぞ皆様も、今回の卒業を機に、生涯学習の新しいステージに向けて歩みだしていただきたいと願う次第です。皆様の今後のご活躍を心よりお祈りいたします。





## 「私と核物理、核問題」

放送大学教養学部環境コース  
同大学院自然環境プログラム  
教授 松井 哲男



今年（2019年＝令和元年）の6月29日と30日の週末に、放送大学北海道学習センターで、「核物理学の初歩と今日の核問題」という題目で面接授業を行いました。受講者は32名でしたが、皆さん熱心に受講されました。最初の授業で自己紹介した際にどうしてこのテーマを選んだかを簡単に説明しましたが、それをもう一度書かせていただきます。私の授業を受けられなかった放送大学卒業生の方々にも読んでいただければ幸いです。

私の専門は核物理で、名古屋大学の院生のときから理論的な研究を行ってきました。具体的な研究テーマはいろいろと変わりましたが、「極限状態における核物質の研究」という点ではあまり変わっていません。どうしてこのようなテーマを選んだかをここで説明する余裕はありませんが、最初は中性子星のような高密度星の内部がどのような状態にあるかという問題の研究から始め、徐々に高エネルギー原子核衝突におけるクォーク物質の生成の理論的研究へと移っていきました。この間、学位を1980年に取得し、その後渡米して13年間に渡り米国の色々な大学や研究所で研究を行いました。帰国して京都大学基礎物理学研究所に5年半ほど所属し、その後東京大学大学院総合文化研究科に所属して教養学部生を16年教えました。放送大学は今年で5年目となります。私のこれまでやってきた研究はこの面接授業の題目とは、一見、かけ離れていますが、いろいろと専門的な研究をしてきて過去を振り返ると、やはり大きな存在であったように思います。

そもそも私が核物理に興味をもった理由は、京都大学の学生の時、原爆実験について解説したある文庫本を読んだのがきっかけでした。本の最初に載っていた原爆雲の写真をみて「凄い」という印象を持ったのを覚えています。後で知ったのですが、ある著名な先生によると、物理に来る学生で、原爆雲をみてこのように感じる学生は核物理や宇宙物理をめざし、逆に「怖い」と思う学生は物性物理を専門に選ぶことが多いそうです。私は明らかに前者に属していました。しかし、大学院に進学して研究テーマを決めるときには、そのような「初心」はどこかに行ってしまうと、話題性のあるテーマを選びました。実は、その頃は物性論の勉強もいろいろとやっていました。名古屋では小林・益川を生んだ伝統のある素粒子論研究室（坂田先生のE研）もありましたが、私はあえてそのような基礎物理は自分には合わないと避けました。渡米して素粒子物理の発展を勉強することになりましたが、それは全て研究が必要としたからです。

私が大学院生の最後の年(1979年)にスリーマイルアイランドの原発事故が起きました。Newsweekなどの雑誌を買って解説記事を読んだ覚えがあります。また、その頃「中性子爆弾」という人間の効果的な殺傷を目的とした新型の非人道的な核兵器が開発されていて憤慨したことも覚えています。どちらも、主に若かりし頃の「正義感」からの反応だったと思いますが、その後、渡米して新しい環境で核物理の研究を通していろいろなことを学び、関係者に会うという機会に接するに連れて、この問題に対する私の考え方や見方も少し変わりました。かつて日本と米国には被害者側か加害者側かという立場の違いがあったかもしれませんが、物理を研究しているものの意識はあまり違いがなく、その多くは、広島・長崎の悲劇を繰り返してはいけないという点では一致していると思います。また、米国が原爆を製造し「加害者」の側に立ってしまったことは、その研究に関わった多くの人に、それが悪用されないように監視するという責任(義務)も課してきたのではないかと思います。核開発の問題は「他人ごとではない」ということだろうと思います。その点、日本の研究者よりも関心は高いように思いました。

私は核兵器などの軍事利用の問題と核エネルギーを色々な用途に利用する問題は区別して考えるべきだと思っています。この2つの問題は密接に関係しているので単純に分けることができないという問題がありますが、過去のどのような大発見も最初は戦争の道具に使われて発展したという歴史があります。しかし、長い目で見て人類の生活の改善につながる可能性のある発見は、急がず、地道に研究を続けるべきだと思います。私が若い時は、「原子力の平和利用」ブームで、「鉄腕アトム」などでも素朴に礼賛されていました。後で冷静になって考えてみると、その社会現象の背景には色々と問題があったようです。その後、実際に商業炉(軽水炉)が稼働し始めると、経済的な効率を急いだことから、いろいろな技術的な問題が露呈し、米国でも私のようにそれを憂慮する研究者が増えてきました。しかし、研究用の原子炉で作られる放射性物質は医療関係でも基礎研究でも実際に役立っており、それを全て否定する「反科学」的な立場には反対です。それは過去にあったラダイト運動を想起させます。人類が核エネルギーを手にしてまだ80年経っていませんが、いつか核物理の知見が本当に人類に役立つ日が来るのを願っています。

最後に私がこの面接授業で特に参考にした、米国で書かれた2冊の本を簡単に紹介しておきます。

- (1) Richard Rhodes, *The Making of The Atomic Bomb* (1986) : この本は日本語訳があります。リチャード・ローズ「原子爆弾の誕生」(紀伊国屋書店、1995年)
- (2) Alvin Weinberg, *The First Nuclear Era* (1994) : この本は、まだ日本語訳はないようです。

「ご卒業おめでとうございます！」

放送大学北海道学習センター  
非常勤講師  
北海道大学大学院工学研究院  
准教授 谷 博文



本年度第 1 学期の放送大学卒業・修了された皆さんに心よりお慶び申し上げます。

卒業・修了を振り返ってみて、どんな学生生活だったでしょうか？

大変でしたか？ 楽しかったですか？ 入学時の目的・思いは達成できましたか？

放送大学の学生はそれぞれ、年代や性別、置かれている環境が異なりますが、そうした違いをすべて受け入れ、学ぶ場を提供する機能が放送大学にはあると思っています。皆さんは、高い志と意欲を持って放送大学に入学され、そしてその機能を大いに活用して学び、一つ一つ単位を積み重ねて、卒業・修了に至りました。その学びの過程では大きな困難や苦労もおありだったことでしょう。それらを乗り越え、卒業・修了の学位を取得したことは、皆さんにとって大きな自信となるはずです。この自信こそが、卒業や修了を単なる肩書ではなく、この先の人生を歩んでいく上の大きな糧としてくれます。放送大学で学んだことと共に、やり遂げたという自信をこれからのキャリアに活かしていただけたらと思います。

私自身は、北海道大学の工学部で応用化学の研究・教育を担当しております。縁あって 4 年前より面接授業「実験から考える生活の中の化学」(2019 年度より。2018 年度までは「身近な環境と化学実験」)を担当し、放送大学の学生の皆さんと接してきました。開始当初の年には、老若男女、キャリアや化学の知識が様々な学生さんを前に、皆さんに満足してもらえる授業を提供できるのか不安がありました。最初に簡単な講義を行い、実験に入りますが、理解してもらえる内容になっているか、実験に失敗しても大丈夫か、事故を起こさないか、など気がかりを抱えながらも、少しでも化学の面白さや実験の楽しさ(同時に難しさも)伝えられたらとの思いで、少しずつ修正を加えながら 4 年間続けてきました。受講された皆さんに共通して言えるのは、冒頭でも書いた学ぶ意欲の高さです。このことに驚き、助けられ、そして皆さんから学びながら続けてこられたと思っています。

実験では、廃油、バイオディーゼル燃料、ソーラーパネル、風力発電、二酸化炭素、清涼飲料水のビタミン C など身近な話題・モノを取り扱ってきました。これらに関する講義と実験を受けてきた経験をもとに、エネルギーや物質に対して少しでも化学の視点で捉え、周りの方と話をできるようになってもらえたら嬉しく思います。

これからの皆さんのご健勝とご活躍を祈念しております。

## 卒業・修了を祝う会の様子

卒業を祝う会は9月21日(土) 学位記授与式の後、同窓会主催による「卒業を祝う会」が、15時30分から行われ、各テーブルには、紅白の饅頭とお赤飯が用意されました。オープニングは、学生サークル「うたの会」の「放送大学学歌」、「北海道放大学生賛歌」「喜びの歌」で始まり、主催者の沖野前同窓会長が挨拶、新田北海道学習センター所長・柴田事務長の来賓挨拶があり、卒業生代表 森川治郎さんから、センターに卒業生一同より記念として、図書寄贈目録が新田所長に贈呈されました。

〈学生サークルうたの会から歌のプレゼント〉



〈卒業生より記念品贈呈〉



〈修了・卒業を祝う会記念写真〉





〈卒業された皆様から寄せられた喜びの「ひとこと」です〉  
(写真は祝う会様子より)

《自然と環境コース》

札幌市 森川 治郎

放送大学には、平成18年3月に「産業と技術」専攻で入学しました。そのころ、女性の先輩で5コース総てを修了した方がおりました。自分は1コースでも大変なのに素晴らしい女性と思いました。

自分は、コツコツ人生で単位試験に何回か落とされましたが再度受験し合格させていただきました。今回の単位試験も、過去問で不明点を担当教授にメールしたところ、回答して下さいたことに感謝です。

最近、喜寿を超え学習することが楽しくなってきました。前述の女性に先導され5コースをマスターしましたので、情報コースに挑戦したいと思います。



《社会と産業コース》

長沼町 青山 栄吉

晴れの学位記授与式、ご指導下さった諸先生、学習センターの皆様、そして祝う会の実行委員の皆様から心から御礼申し上げます。

私は、無謀、かつドン・キホーテと自嘲しながら、日本弁護士連合会と「委任契約書」の有効性について数年争っています。その中で、権利侵害の事実があっても、それを主張し論証できる学問がなければ、惨めな結果に終わると痛感しました。今回「杉浦ゼミ」で、イエーリングの権利の主張（闘争）は、権利者である自身に対する義務であり、国家共同体（社会）に対する義務であることを学び、勇気を得、励まされました。

また、自己の正当な権利の回復は「矜持」である、この自尊の信念を学習できたことは無上の喜びです。いままで学んだ学問の一つ一つは、諸先生から授かった珠玉の思念です。愚昧を正す教訓となり、一度限りの人生を稔豊かに、賢明に、矜持をもって生きる貴重な道標となりました。

基礎学歴も基礎教養も乏しい者が、今日の榮譽を拝する感激と喜びは、言葉に尽くし得ません。ご教導の諸先生に心から感謝を申し上げます。

# 第7回放送大学東北・北海道ブロック交流会

## 同窓会交流会報告書

北海道同窓会 川崎 功男

実施日時 令和元年9月21日(土) 9月22日(日)

実施場所 郡山市労働福祉会館・ホテルはまつ  
放送大学福島学習センター

### 出席者

- ① 放送大学 副学長 岡田光正／福島所長 千葉悦子／笹田事務長
- ② 同窓会連合会 会長 佐栞慎二／監事 須藤國夫
- ③ 北海道同窓会 会長 宮崎新吾／副会長 及川博征／副会長 川崎功男
- ④ 青森同窓会 会長 関川宏明／副会長 田澤 豊／幹事 五十風裕子
- ⑤ 岩手同窓会 会長 森 友江／事務局長 米澤弥志夫／理事 小山康久
- ⑥ 秋田同窓会 会長代行 関山尚三／前会長 田口陽一
- ⑦ 宮城野会 会長 佐々木美枝子／理事 安喰由幸／監事 秦美枝子
- ⑧ 山形同窓会 会長 平澤良一／幹事 伊藤典子／幹事 柳澤卓
- ⑨ 福島同窓会 会長 西村洋文／副会長 館順子／熊谷泰人／庄司利則  
事務局長 村越泰典ほか19名

### ○9月21日 第一部(講演会)

交流会の冒頭で千葉悦子福島学習センター所長から、福島学習センターでの学習の取組に関する挨拶から始まり、西村洋文福島同窓会長、岡田光正副学長の挨拶が続いた。

三氏の挨拶終了後、約1時間半の放送大学公開講演会の聴講となる。講師は一般社団法人郡山医師会郡山市医療介護病院看護部長宗形初枝さんで講演テーマは「優しさを伝える技術 ユマニチュード®」と聞きなれないテーマであったが、講演内容に引きずり込まれるように聞き入った。

講演内容は国内では導入事例の少ない、認知症の入院患者に優しく接する技術「ユマニチュード」の導入に至った、郡山市医師会病院全体での取組について講演された。ユマニチュードとは、フランスで生まれて40年近く経つ認知症ケアの一つで、認知症の人や高齢者に限らず、ケアを必要とするすべての人に向けた、知覚・感覚・言語による包括的コミュニケーションに基づいたケア技法である。

基本的な技法には「4つの柱：見つめる、話しかける、触れる、立つ」と「5つのステップ：部屋に入り、声をかけ、ケアを実施し、退室するまでの細やかな技法を言語化したもの」の二つがある。

同病院では病棟の全看護師・介護職員がユマニチュード短期講習を受講し、一か月後、

認知症患者に変化が現れているのに気づいたと回答している割合が多くなったと言う。患者にも個々人色々な変化が起こったようである。同病院ではユマニチュードを導入して5年になるが、今ではインストラクターが3名在籍し、インストラクターの派遣も行っている。

講演は看護師の研修模様をビデオで視聴したり、会場全体での簡単な実演などを交え、貴重な時間を過ごすことができたと考える。

今回の講演を拝聴し、年々65歳以上の高齢者の割合が上昇している現在、数年後には65歳以上の4～5人に1人が認知症になると見込まれており、他人ごとではなく私自身認知症に患った際、このユマニチュードによるケア技法で介護を施していただきたいと願う次第である。

## ○ 第二部（同窓会情報交換）

第二部は同じ会場で各同窓会情報交換会が実施され、開催にあたりあらためて西村洋文福島同窓会長、須藤國夫同窓会連合会監事、千葉悦子福島学習センター所長の挨拶が行われた。

今回の東北・北海道ブロック同窓会交流会には岡田光正副学長がご出席になり「放送大学の現状紹介と同窓会への期待」をテーマに約15分の講演をしていただきました。

講演資料が何かの手違いで参加者に配布されず、岡田副学長はスライドなしでの講演となりました。パワーポイントのスライドの無い講演は人生において二度目のことだそうです。

年々入学生は減少しているが、選科履修生や科目履修生は増えており、学士以上の入学生は平成28年度の統計では3/4以上となっている。博士号を取得している学生の入学も見受けられるようになった。

地デジチャンネルを返還した代わりに、BS2チャンネル化になり番組制作や編集に苦勞していることや、来年度以降のデータサイエンスを学ぶための番組制作を始めることなど。今後の大学の方向性について簡潔にお話いただきました。

## 各同窓会の情報交換会の資料発表

・トップバッターは開催地の福島同窓会で、初めに同窓会のユニークな活動として、昨年からは継続で行っている「きらめく水のふるさと磐梯」湖美頼（みずみらい）基金水環境保全活動事業について発表した。この活動は平成30年度同窓会総会で社会貢献・研修活動として議決ののち、取組みを開始し、本年度も継続して実施している。

事業の目的は豊かな自然を次世代へ伝え、豊かな自然の大切さを普及啓発とし、県からの支援事業費を補助していただき活動している。活動内容は猪苗代湖水辺8箇所（8箇所）の河川や疎水の水質調査・景観定点観測を行う。

昨年度の事業結果報告として水質調査結果、景観定点観測結果について発表し、結果は

良好で、水は「きれい」、景観も水と同様「きれい」と報告し、さらに、課題の解決と目標の達成したことを述べ発表を修了した。

・北海道同窓会からは、当日北海道学習センターで行われた学位記授与式に出席のため、22日から参加の宮崎同窓会長に代わり、及川副会長が活動報告を実施する。

報告内容はユニークな活動として、NPO 法人「北海道海浜美化を進める会」の主催する「海浜の清掃活動」に協力事業として、同窓生有志が奥尻島海浜清掃、積丹町島武意海岸・幌武意海岸清掃、インターナショナルビーチウオーク（石狩浜）に参加していることを報告した。

マイクロプラスチック問題が近年世界的な問題になっているなか、継続的な活動として今後も実施していくことを報告した。

・山形同窓会からは、冒頭ユニークな活動はないと謙遜しながら報告する。これは同窓生と同時学生をそのまま継続している会員が多く、同窓会独自で活動するよりも学生サークルと協同で活動していることが多い。卒業研究発表会を年2回実施したり、月1回学生講師によるパソコン講習会等を実施している。唯一同窓会独自で実施していることとして、同窓会会報を年一回発行している。ただ、他の同窓会会報と比べるとページ数が少なく、何としなければいけないと考える。

・青森同窓会からは、会員が少なく規模が小さいため、大規模な活動は困難であるが、学友会と協賛で学生にも参加できる活動を実施している。

文化祭開催時に専用ブースにて、新入生・在校生を対象に学習相談会を実施している。

直近で卒業した卒業生を対象に、同窓生主催で卒業生祝賀会を実施しているが、昨年より午後から卒業生・修了生から体験講話の発表をさせていただいている。卒業研究を行いたい、大学に入学したい方が多くいた。発表を聞きたい方は多いが、発表してくれる方が少ないので、発表者募集の活動を実施したい。

・宮城野会からは、同窓生でもあり学生でもあり、現在も関連機関と炭化に関する実験等を行っている同窓生の紹介を行った。

放送大学大学院時代に開発した短時間での炭化方法で、卒業論文を完成させて特許登録を受けることができ、学会での発表まで行っている。その後も大学での実験授業や地方公共団体での試験窯の設置や実演などの依頼を受けている。また、インドネシアから飲料水浄化のためのヤシ殻炭の製造依頼など受けている。

今後もこの新炭焼き手法の普及を目指し活動するそうです。

・岩手同窓会からは、全国で2番目に遅く発足した同窓会なので、手探り状態で活動を実施しているのが現状であると報告。会報は2回発行しているが、連合会のホームページ

に掲載するための編集を行っていなかった。今後は連合会のホームページに掲載できるよう編集する。同窓会独自のユニークな活動は行っていないが、個々ではボランティア活動等を行っている方がいたり、イベント司会や老人クラブに参加している会員もいます。

課題として、卒業生から同窓会が設立されたことを知らないとの声があり、どのようにして同窓会の存在を周知するか、他の同窓会での周知活動を聞きたい。

- ・秋田同窓会からは、報告シートは作成せず口頭での説明となる。  
同窓会の中には歴史の会等が活動を実施しているが、今回は資料作成しなかった。



## 懇親会

会場を近くの格式高いホテルはまつに移動し、2階開成の間において懇親会が開催されました。会には岡田光正副学長をはじめ、千葉悦子センター所長や当日会合に参加できなかった、佐栞慎二同窓会連合会長も加わり、美味しい地酒をたしなみながら忌憚のない会話が交わされていていっそう親交が深まりました。

途中、福島同窓会会員の渡辺正恵さんの箏と佐藤正助さんの尺八の演奏があり、北海道ではなかなかお目にかかれない雅な光景に感動しました。

○9月22日（日）一部（同窓会連合会及び各同窓会との意見交換）

- ・はじめに連合会から近年、交流会の統一テーマとして「同窓会及び学生の地域でのユニ

ークな活動状況・概要紹介」を掲げている理由として、前日岡田副学長も同様のことを仰っていたことを思い出し、放送大学だけでなく同窓会も一緒になり行動することで、放送大学を生涯学習の場だけでなく、広く社会に発信に資するためだと納得したところである。

その後各同窓会からユニークな活動について、忌憚のない意見が発言され活発な意見交換会となった。

・その後フリートークに移り「どの同窓会でも役員のみならず役員が少ない中、今年北海道と岩手では新たに役員になった当事者が今回交流会に参加しているので、役員を引き受けた動機について」この場で説明してはどうかとなり、岩手1名と北海道2名の新役員が役員になったきっかけを説明した。

たまたま、福島同窓会と埼玉同窓会と掛け持ちで役員をやられている方がおり、埼玉の同窓会行事について説明があり、会費制のイベントを多数開催することで、会員同士の連携を保っている話に大変興味を感じた。

最後に来年のブロック交流会は宮城学習センターで開催するが、学習センターの改修工事と重なり現時点で日時を決定できないが、来年の放送大学同窓会連合会の総会時にはお伝えできると宮城野会から周知された。

## ○ 第二部（見学学習）

### 開成館の見学

会議でのすべての日程を終え、同窓会会員で開成館説明ボランティアを行っている吉津様による案内・説明で、猪苗代湖から郡山市内に安積疎水を引くまでの歴史を短い時間で学ぶことができました。学習センターに戻る途中、開成山公園では秋のイベントが開催されており、穏やかな気候のもとで多くの市民がイベントを満喫しているようでした。

学習センターでの昼食後、次回宮城野会主催の第8回東北・北海道ブロック交流会での再会を楽しみに帰路につきました。



# 第17回放送大学研究発表会開催

「第17回放送大学研究発表会が行われました」

第17回放送大学研究発表会実行委員会

実行委員長 宮崎 新吾

本年10月12日（土）に「第17回放送大学研究発表会」を開催しました。

昨年10月に、第16回を数えた放送大学研究発表会は皆様方のお力添えによって、素晴らしい研究発表会とすることができ、こうして第17回も本当に充実した研究発表会とすることができましたことは、皆様のご協力のおかげさまであると実行委員一同深く感謝しております。また、昨年同様学習センター所長のご配慮もいただき、学生の発表数を3名として、その内容もより濃いものを選定させていただきました。



この研究発表会は、放送大学が誇る大学院で研究をされた方々はもちろん、学部を卒業された方々、また、学部を卒業した後、北海道大学大学院で研究を続けている方を含め、興味深い研究をされている学生を選定しており、比較的身近な仲間たちからの発表の場となるよう位置付けております。この発表会を通じて、ここに集まった皆様が楽しみながらより賢明になれること、そして、ここにいらっしゃった方々から次回は自分も発表してみたいと思ういただくことこそが、私たち実行委員にとって、この上ない喜びであります。

運営については、実行委員会形式をとり、学習センター、学友会及び同窓会の融和をはかり、協働して、皆で企画運営してきているものです。

現役の学生として学習センターや学生サークルに日常的に親しんでいる方はもちろん、同窓会の会員として、卒業生として新たな道に進んでいる人、また、再入学して勉学に励んでいる人などが一体となって、まさに「自分たちでつくる」、聞いてよし、発表してよし、運営してよしの三拍子がそろった研究発表会であります。

さて、今回の研究発表会の記念講演は、当初岡田光正副学長が行う予定でしたが、台風19号の接近により岡田副学長の来道が中止となり、急遽放送大学北海道学習センター所長・北海道大学名誉教授の新田孝彦先生にご講演をお願いいたしました。急な依頼にも関わらず、先生には、本当にご多忙な中、講演を快諾していただきありがとうございました。

（講演要旨）人は誰でも幸福になりたいと願っていますし、正義にかなった社会を望んでいます。しかし、歴史や文化、政治、あるいは資源等々のさまざまな制約条件の下にある現実の社会において、幸福と正義を同時に両立させることは必ずしも容易なことではありません。本講演では、いくつかの代表的なジレンマ問題に即して、幸福と正義の間に在する倫理的問題の所存を皆さんと共に考えたいと思います。



### 発表 1

放送大学教養学部心理と教育コース在学中の小林勝則さんによる、「感情の共感を高める心理教育プログラム-中学生の自尊感情に及ぼす効果の検討」と題しまして、発表していただきました。発表では、思いやり行動方法を学び仲間同士で支え合う実践活動を行うピア

・サポート活動において感情の共感を高めるため心理教育プログラムを導入することが、中学生の自尊感情に及ぼす効果について、実証的に検証した結果を発表した。発表の最後に、ピア・サポート活動は、肯定的な感情の共感は促されたが、自尊感情は向上せず一部下位尺度では得点が低下していた。このことから更なる実証的研究を進めていく必要があるとまとめている。

### 発表 2



同じく放送大学教養学部心理と教育コース卒業小原木聖（おぼらこみな）さんによる、「美容室の隠れた効用-美容室利用による気分の肯定的変化と積極性の向上-」と題しまして発表をしていただきました。発表では、美容室を利用することで顧客の日頃のストレスや緊張状態が緩和され、更に対人関係での積極性が向上するか否かの研究結果を発表した。研究は二通り行われ、一つ目の目的は、美容室での施術

が顧客の気分や心理の変化にどのように影響するか検討する。二つ目の目的は、美容室での施術の効果が実際の日常生活に影響しているかの検討と美容室での施術が実施に生理的な変化をもたらしているか検討を実施した。二つの研究を実施し、顧客のメンタルヘルスの改善に貢献していると結論付けし発表を終えている。女性には大変興味の沸く発表と思えた。

### 発表 3



北海道大学大学院修士課程物理学専攻の川谷維摩（かわたにゆいま）さんによる、「量子場の論理と自発的対称性の破れ」と題しまして発表をしていただきました。発表では、内容が専門的になりすぎるので、素粒子物理学における標準模型の理解のために、その基礎となる場の理論や自発的対称性の破れとはどういうものか概要説明であった。概要にしても理解に苦しむ内容であった。

今回の発表も、学習センター所長、学友会をはじめ多くの方々からご協力をいただき、多くの方々に参加していただくことができました。これもひとえに皆様のおかげだと感謝しております。また、第 18 回も開催する予定ですので、是非一度ご覧ください。

## 第17回 放送大学研究発表会アンケート 集計報告

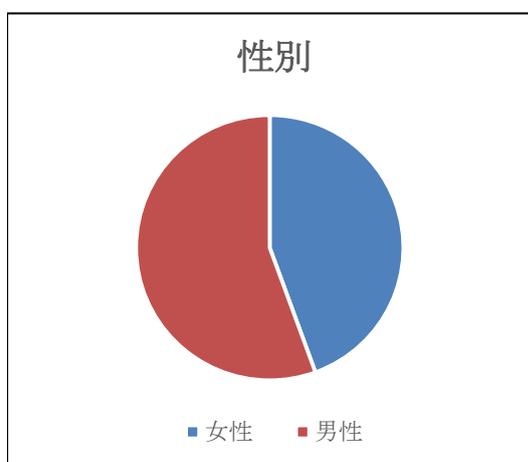
令和元(2019)年10月12日実施  
放送大学研究発表会実行委員会

### ✓ アンケート方法

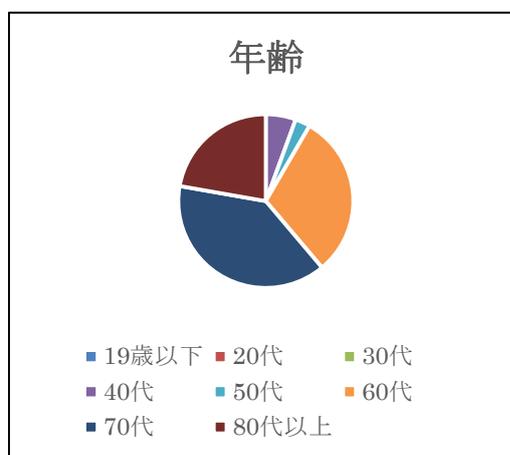
- 受付時に資料と共に配布し、研究発表会終了後に回収。
- アンケート有効回答数 36

### ■ 選択回答欄 集計グラフ

問A) あなたの性別・年齢は・・・ (グラフ 1.2)

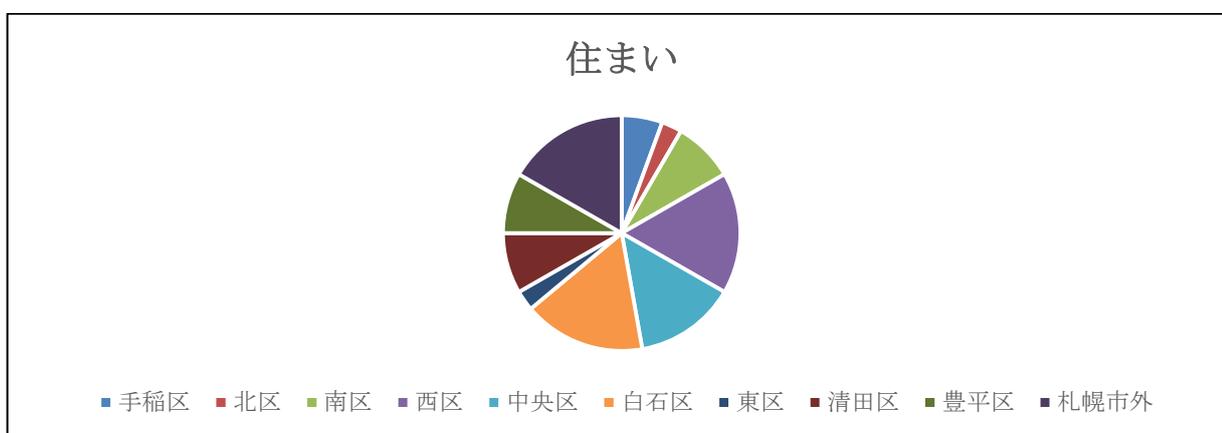


グラフ 1



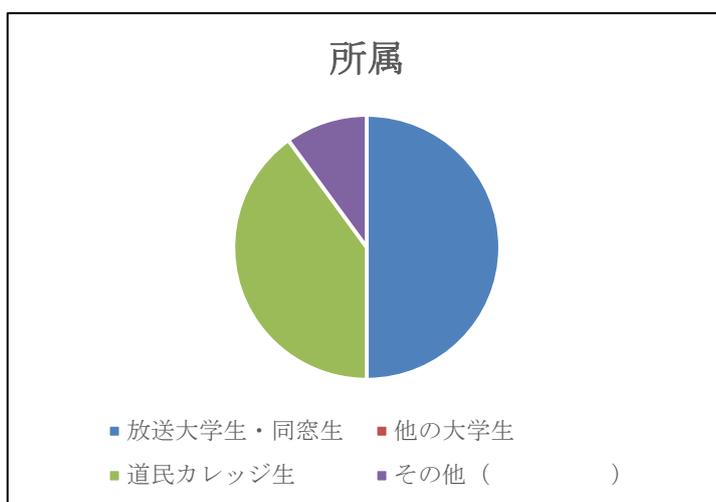
グラフ 2

問B) あなたのお住まいは・・・ (グラフ 3)



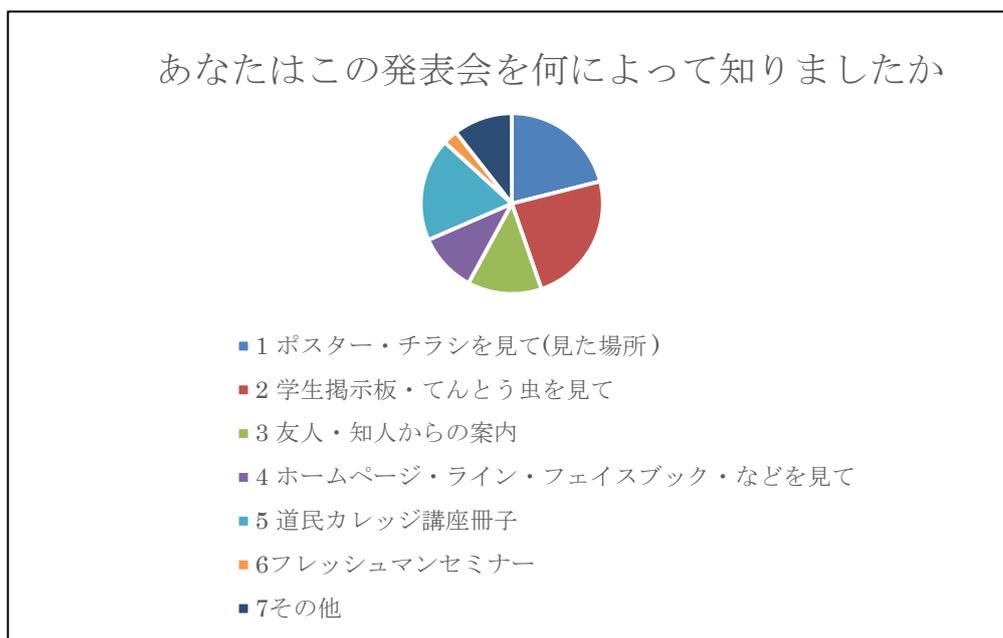
グラフ 3

問C) あなたは（放送大学生・同窓生、他の大学生、道民カレッジ生、その他）（グラフ 4）



グラフ 4

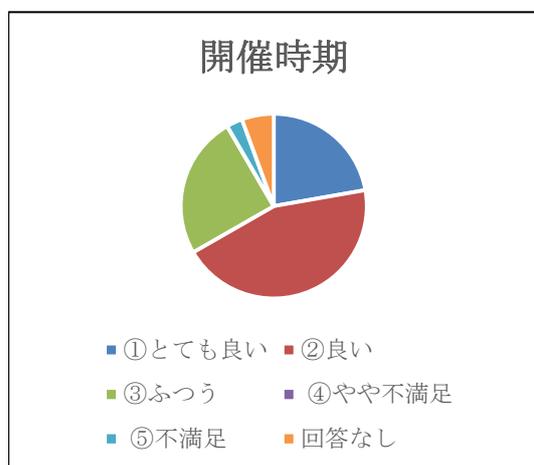
問D) あなたはこの発表会を何によって知りましたか（グラフ 5）



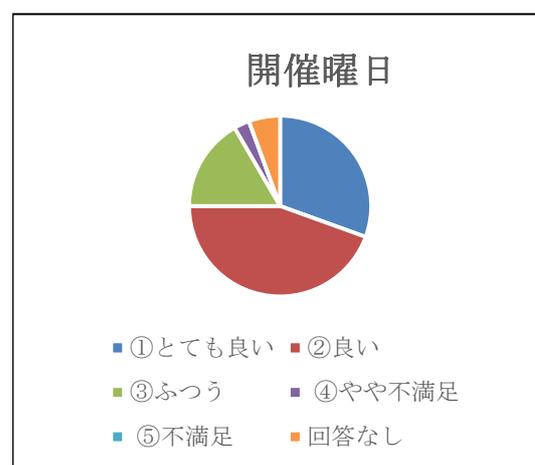
グラフ 5

## 問 E) 開催時期・開催曜日等

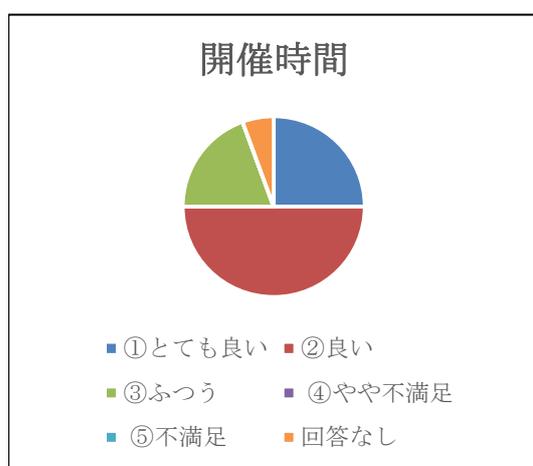
開催時期、開催曜日、開催時間、発表時間(グラフ 6~9)



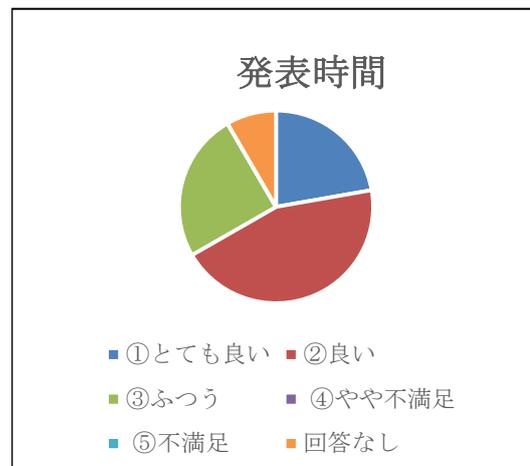
グラフ 6



グラフ 7



グラフ 8

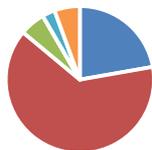


グラフ 9

## 問 F) 会場について

大きさ等、設営、受付係、案内係・会場係、進行役(グラフ 10~14)

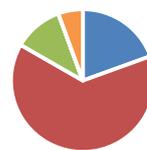
### 会場（大きさ・交通等）



- ①とても良い ■ ②良い
- ③ふつう ■ ④やや不満足
- ⑤不満足 ■ 回答なし

グラフ 10

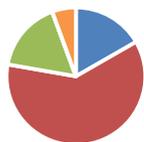
### 設営（机の配置等）



- ①とても良い ■ ②良い
- ③ふつう ■ ④やや不満足
- ⑤不満足 ■ 回答なし

グラフ 11

### 受付係の対応



- ①とても良い ■ ②良い
- ③ふつう ■ ④やや不満足
- ⑤不満足 ■ 回答なし

グラフ 12

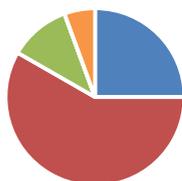
### 案内係・会場係



- ①とても良い ■ ②良い
- ③ふつう ■ ④やや不満足
- ⑤不満足 ■ 回答なし

グラフ 13

### 進行役の説明等

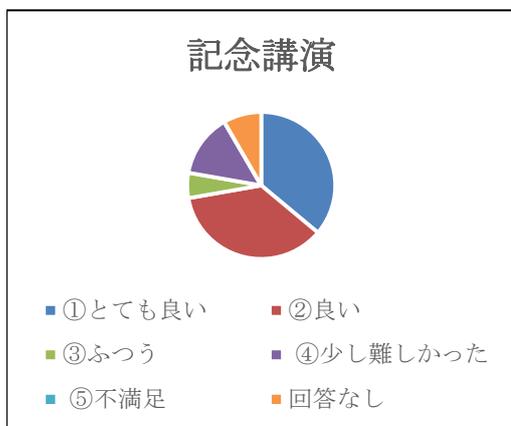


- ①とても良い ■ ②良い
- ③ふつう ■ ④やや不満足
- ⑤不満足 ■ 回答なし

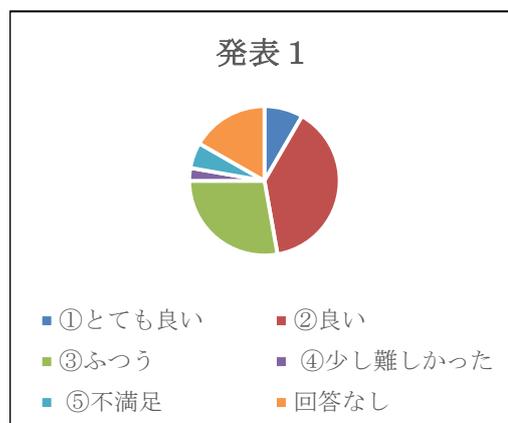
グラフ 14

問 G) 内容について

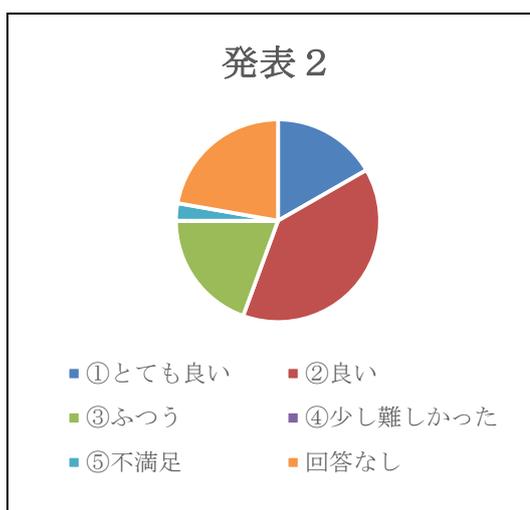
記念講演の内容・発表1・2・3の内容・資料の内容(グラフ15~19)



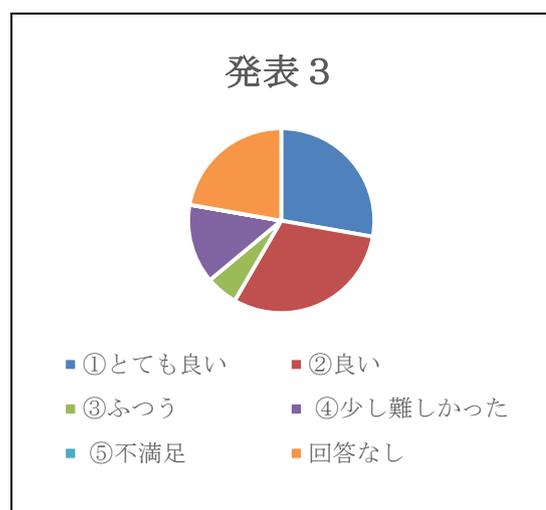
グラフ 15



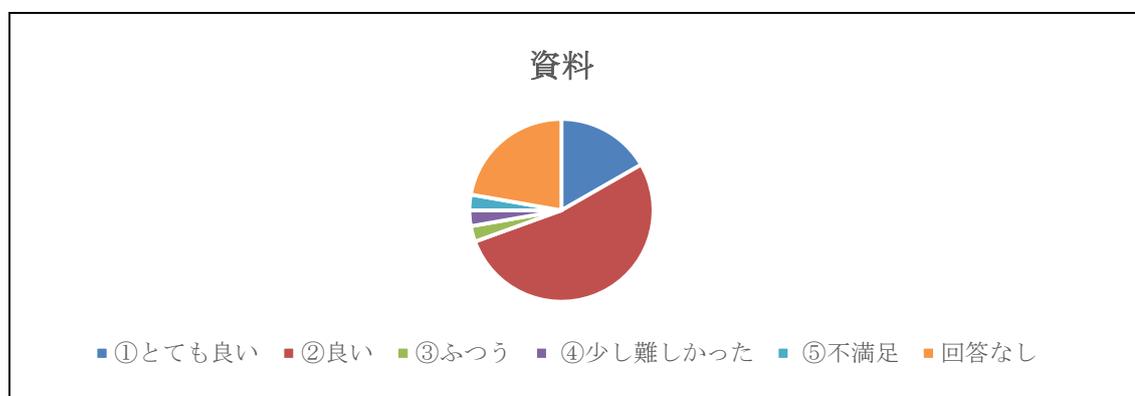
グラフ 16



グラフ 17



グラフ 18



グラフ 19

発表会についての意見	
1	記念講演「{ジレンマの日本語訳}…辞書によれば二つの相反する事柄の <u>板挟みになることがあるので{板挟み}と訳すのが良いのではないかと</u> 思料します。
2	時機にあったテーマ、地域社会に検証するテーマでよかったです。
3	平常日を希望します。
4	岡田先生の講演目的。中止でコメントなし。
会場についての意見	
1	良い環境で拝聴することができました。
2	良かったです。
内容についての意見	
1	非常に熱心な研究ばかりで感心しました。今後ともこのくらいの発表規模で継続されると良いと思います。
2	記念講演「環境の保全と再生：なぜ、またどこまで水環境を保全し、再生するか」は、紀要に書いてありましたが生で岡田光正先生の講演を聞かれずに残念でした。新田先生の講演は、私の心がまえができていないためについていけませんでした。
3	研究発表では、小原さん、川谷さんのまとめが大変良かった。又川谷さんには、今後の研究活動に期待が持たれました。
4	発表3は、発表者が参加者に理解してもらおう様努力していた。解り易かった。
5	日ごろ感じていることにはおもしろかったです。発表3については難しい「モノ」という考えでしたが、分からないながら興味あることでした。
6	新田先生お疲れ様でした。悩みま-----
7	初めての参加で、ジレンマの話は難しかったで。例は、おもしろかったです。全く違うジャンルの研発を聞かせていただき、いろいろなことを思い巡らせてみたりして、大変勉強になりました。お疲れ様でした。
8	資料の表やグラフの数字や文字が小さすぎてほぼ見えず役に立っていませんでした。
9	哲学馴染みがないのでなかなか大変でした。
10	記念講演は、急なお願いにもかかわらず、ご講演していただき心よりお礼申し上げます。とてもおもしろく色々と考えさせられました。途中途中の質問に答える方法など-とても興味深い内容でした。(カラーだったらもっと良かったと残念)
今回の研究発表会についての意見・感想	
1	データを基にした研究発表が多いので、歴史、哲学、芸術などの理論研究等の発表も期待したいと思います。
2	発表3の内容は、難解であったが、平易に説明されており基本が少し理解できた気がする(?)有難うございました。

3	テーマ設定がしっかりして、よかったですと思います。
4	各分野のことにふれることが出来て、視野が広がった気がします。記念講演では普段あまり頭を使わないので頭の体操みたいでした。
5	発表テーマ感情の共感を高める心理教育プログラムが中学生の自尊感情に及ぼす効果の検討について、 <u>で自尊感情について述べられたが、4つ述べていたが自尊感情が「低い」と1ぱ1からげにすることは、問題あると私は思います。</u> 生徒が口にしている言葉と裏返しのこともあると思います。常にそれは何？それは何故？と考える必要があると思います。それを忘れては生徒の評価を間違ってしまうです。
6	卒研をやるポイントが前回よりも分かってきたところが自分の中で前進したところです。このような会を開催していただき感謝しています。
7	台風19号の影響で岡田先生の講演が聞けなかったのが残念ですが、とっさのピンチヒッターを引き受けてくれた所長に感謝です。自薦、事後、興味のある方が討論する機会を作っていただけると良いと思う。
8	今回岡田副学長の記念講演を聴くことが出来なかったので、来年以降に是非お願いしてほしい。
9	発表1：学びを色々な立場や感情の変化を通して考察していったのは、とても有意義な内容でした。
10	発表2：美容を通して、心の動き、気分の変化などで肯定的変化を検討していくことは今後の高齢者の精神変化に有効に活用できると今後の研究が楽しみです。
11	発表3：とても難しいテーマを実に楽しく、わかりやすい図表で表現してくださり、有意義な発表でした。事前勉強しておくともっと理解できたと思いました。

## 次回開催予告

### 第18回放送大学研究発表会

**2020年10月10日(予定)** 土曜日午後1時から

**博士課程修了・修士課程修了・学部卒業の皆さま**

研究発表会実行委員会では研究発表者を募集しています。

第17回放送大学研究発表会実行委員会

実行委員長 宮崎新吾

受付窓口 FAX011-642-2389 [e-mail tomi-2.7.2@jcom.home.ne.jp](mailto:tomi-2.7.2@jcom.home.ne.jp)

## 同窓会の社会貢献コーナー

石狩市三線浜で行われ564名参加し約4トンのごみを回収した清掃活動に同窓会員3名、放送大学生2名道民カレッジ生8名も参加し、砂浜のおびただしい数のプラスチックゴミが砂に埋もれたりなどして風や波で運ばれたものや海岸利用者が捨てたと思われるおにぎりの外装・新しい釣り具のプラ包装・紙おむつなども回収しました。

### 2019(R1)年6月23日<第12回浜美化キャンペーン in 洞爺湖町>

洞爺湖町虻田海岸に札幌から貸し切りバスで35名参加(そのうち同窓生3名道民カレッジ生8名)参加しました。12年目になり虻田海岸清掃は其の前年から開催しているので13回目になりました。海が時化ると海岸に打ち寄せるゴミが減少しますが、住民が捨てたと思われる紙おむつを発見。40個以上回収しました。少数精鋭の活動は昨年同様概算で2.5t回収しました。

### 2019(R1)年8月31日<第8回エコツーリズム in 積丹>

美しい渚100選の島武意海岸を守るため、今年も22名(同窓生1名在学生1名)参加でやってきました。回収したごみは後日、ゼムハウス藤田さんに船で運んでもらいました。1トントラックに1台半。夕食後の勉強会はミス小樽の村上千草など2名の発表があり、続いて藤田尚氏が水中ドローンの映像を交えながらトドの映像で海洋の環境問題について講演し、最後は会員の國田瞳さんが「トントの冒険」を朗読し、環境保護の勉強をしました。2日目は幌武意海岸を清掃し、岩をはがしながらのプラごみの回収は宝探しのようで1.5t回収しました。

### 2019(R1)年8月12日13日<札幌ドーム 環境広場出展>

札幌市主催の環境広場は小学校低学年を対象とした体験型環境教育の場です。道庁の環境局と共催して開催。同窓会から2名がお手伝いに行き、海岸のプラごみの害や、清掃活動、漂着ゴミの説明などをしました。このような出展で海岸のゴミがどこから出てくるのか子どもにも大人にも考えてもらえたら嬉しいと思います。

### 2019(R1)年9月22日<第5回インターナショナルごみ拾いビーチウォーク>

今年も石狩市三線浜290名(内同窓生3名、在学生2名道民カレッジ生9名)参加。今回はトヨタ自動車(ソーシャルフェス)が協賛し、北海道新聞が後援して参加者を募集しました。募集定員250名のところ400名近くが応募したとのことで、環境保護意識が高くなっていると感じました。海岸はビフォーアフターでプラごみが散乱していた砂浜が自然に戻り、海から「ありがとう」と聞こえてくるようでした。



## 2019(R1)年 10月22日<第16回浜益ビーチコーミング?・海浜美化キャンペーン>

石狩市浜益区浜益海岸では年に2度海岸清掃とビーチコーミングを行ってきました。今回53名(内同窓生3名、在学生1名、道民カレッジ生8名)参加し、回収量330kg。良い天气に恵まれ、思った以上に細かいプラスチックがたくさんあり驚きました。Petボトルは数が多くないですがとても目立ったので印象が良くない事もわかりました。「マイクロプラにならないような活動を我々もしていく必要を感じます」と参加した北海道ココ・コーラボトリングの方の感想があり、プラごみの実態を企業に知ってもらう良い機会となりました。



\*同窓会の海岸清掃活動はNPO法人北海道海濱美化をすすめる會と学生サークル「地球守り隊」の協力で行っています。

## 加藤榮さん 広報大使に

このたび北海道同窓会名誉会員の加藤榮さんが、北海道学習センター広報大使の委嘱を受けました。委嘱状の交付は、9月14日(土)文化祭当日に、新田北海道学習センター所長から手渡され、等身大パネルの除幕式も併せて行われました。



## 連載

### 加藤 栄（名誉会員）の 自分史回想

## 第3回

#### 8、＜教育課長から共済連埼玉県川越学生寮長に(昭和 39(1964)年 47 歳)＞

北海道共済連が、北海道から東京に遊学する組合員子弟のための学生寮を東京近辺に開設することになり、どうした風の吹き廻しか、私にその寮長をヤレという話が飛び込んできた。あれこれ悩んだが、顧われることは有難いことだと、年寄りの母親を伴い、未知の川越市に赴任することに決した。

寮は大東文化大学が建設したもので、文部省からのクレームがつき、急ぎよ売り出された物件であった。6月という入学期から外れた時期の開寮で入寮生は少数であった。職員は寮長、調理師、掃除婦 5 名計 7 名という陣容であった。手に入れたものは建物だけ。これに設備を整えて体動を確立することは大変な仕事であった。秋になり、ボイラーに火を入れてスチームを通した処、縁の下のあちこちで蒸気が吹き出すなど初期故障である。

この年 10 月には東京新幹線が開業し、TVでは「ひょっこりひょうたん島」、歌では水前寺清子の「涙を抱いた渡り鳥」都はるみの「あんこ椿は恋の花」美空ひばりの「柔」などという具合。寮生の申し合わせにより午後 9 時過ぎると各人の晩飯についての所有権は喪失するという事になっていた。その時刻が近づくと、幾人もの寮生が箸を持って食堂の前に並んでいる。突然電話が鳴り「〇〇です。今駅に着いた。これから走りっていくから、僕の晩飯を確保しておいてください！！お願いします」と真剣な声で叫んでいた。

刻限を過ぎて帰って来た寮生が「おばさーん、晩飯あたらなかった。」と泣きを入れてくる者も居り、家内が我が家の残飯を提供していた。

長瀨（ナガトロ）へのバス旅行を寮生と共にした事、夫婦で富士山登山をした思い出などあり、楽しくもあり、多くの学生と苦勞を共にした。前からお世話になっていた関係出版社に「今度こちらに来ました。」とあいさつに赴いた処、編集長から、丁度良いところだった。初級者向けの「農協簿記入門」を企画している。是非執筆してくれという話。生返事で帰って来たが考えてみれば、教科書などは、大学の先生が書くもの、無学歴でタタキ上げの私にはとんでもないことと感じ、早速、話を返上しに行った処、「これはお前にしか書けない本だ。」と言って強引に押し付けられた。

B5 版 120 頁程度のもので「農業簿記の基礎」というもの。この 2~3 ヶ月で書き上げてくれという。悪戦苦闘の末、満足しないまま編集担当者に取り上げられた。著者の満足を待っていたら何十年もかかると。

#### 9、＜札幌へ戻ってから＞

川越学生寮勤務は 2 ケ年で終わり、又札幌へ戻ってきて、農協学校で教えることになった。

先に執筆した小著は幸い全国の中央会仲間のお蔭で順調に売れていた。今度は電話で雑誌への連載の企画が舞い込んできた。題名は、「初・中級職員の農協簿記講習講座」で1年間という計画である。締め切りまでに原稿を書き上げると、翌日から又30日苦闘の連続である。毎日終業後事務所に残り次の構想を毎日毎日、ああでもない、こうでもないと考え巡らせ、締切日の4~5日は、大わらわで書き上げて、又次の月の準備に入る。こうして1ケ年毎日3時位事務所に残って苦しんだ。途中、評判が良いから単行本化を考えようと云う。東京からの出版は恐ろしい。何処で誰が見ているか解らない。電話で質問も来るが、何処の何様が解らないまま、解答する恐ろしさを、いやと云う程感じた。

その後、道内の各農協の歴史をまとめる仕事は始まり、その執筆依頼が次々来ていた。

・・・会報36号に続く

## 募金のお願い

10月31日未明に火災が発生し、正殿、北殿、南殿が焼失した首里城の再建支援に向け、北海道同窓会において会員の皆さまから募金の受付を開始いたします。

募金の振込先は以下のゆうちょ銀行にお願いいたします。



ゆうちょ口座名 放送大学北海道同窓会  
口座番号 02740-0-37725

首里城公園公式HPより引用  
<http://oki-park.jp/shurijo/guide/56>

## 募金の御礼

胆振東部地震募金を頂きありがとうございました。10月下旬に日本赤十字を通じて寄付いたしました。

総額 67,700円

田尾信弘、木村ゆかり、櫻庭渉、奥村みどり、品田豊、及川博征、小枝光、橋本勲、熊本学友・同窓会、富田英子、鈴木誠、中根恵美子、沖野茂夫、榊原峰子、大橋ちよ子

敬称略

## 会費納入と新入会員募集のお知らせ

2019年度の継続会員の方は、今年度の年会費1,000円を下記口座へお振り込みくださるようご協力をお願いします。

また、同窓生の中で同窓会に入会していない方がおられましたら、入会をおすすめくださるようお願いいたします。

入会を希望される方は、郵便振替用紙に「氏名、住所、電話番号、卒業年月、専攻」をご記入の上、入会金1,000円、年会費(初年度)1,000円を下記口座へご送金ください。(次年度以降は年会費のみとなります。)また、70歳以上の方は、1万円で終身会員となります。

ゆうちょ口座名 放送大学北海道同窓会  
口座番号 02740-0-37725

## 新入会員のご紹介！！

**2019年9月卒業生** (敬称略・順不同)

- ・《心理と教育》  
高橋 俊幸
- ・《心理と教育》  
伊藤 公浩、黒田 操、大川 周、  
薄田 きよみ、阿部 めぐみ、佐藤 伸  
太田 勉
- 《社会と産業》  
青山 栄吉、平子 誠二
- 《人間と文化》  
石田 吉成、古田 都彦、佐藤 光子、  
速水 允子

2019年9月30日現在以上14名入会

- ・住所・電話番号などの変更のときはご連絡をお願いします。

## 放送大学を宣伝してください！

皆さんの『ロコミ』で、放送大学に入學して良かったと思うことを、大勢の方々に知らせてください。

入學等に関する問合せ先

送大学北海道学習センター  
TEL 011-736-6318

## 「会員の声・読者の声」募集中！

現在、会員や読者の皆さんの声を募集しております。皆さんの近況や会報へのご感想、ご意見がございましたら、是非、お寄せください。

(宛先) 〒060-0817

札幌市北区北17条西8丁目 北海道大学構内

放送大学北海道学習センター気付

放送大学北海道同窓会

学習センター事務室内ポストに直接投函可

FAX・Tel 兼用：011-642-2389 中根

## 編集後記

皆様のおかげ様をもちまして、同窓会の会報も今回発行で35回目になりました。

先日、福島県で行われた放送大学の同窓会の東北・北海道ブロック交流会に参加してまいりました。あらためて、放送大学の仲間は日本中にいて、素晴らしい活動をしていることを再認識いたしました。放送大学の学生は、インターネットによる講義や印刷教材を使用しての自宅学習が中心となり、どうしても学生相互や学習センターとの交流が希薄になりがちです。北海道同窓会では、そのような環境でも学生間やセンターとの交流を図る機会を提供するため、会報の発行や卒業・修了を祝う会の実施、あるいは、研究発表会や文化祭の運営を通じて交流の場を提供できるよう努力しております。先の東北・北海道ブロック交流会では、他の同窓会の活動やアイデアを聞かせてもらい、今後の北海道同窓会運営に役立てて、大いに交流を図りたいと思います。(編集委員長 宮崎新吾)